

儒家

1,孔子 BC. 551~BC. 479 中国、春秋時代の学者・思想家・儒学の祖。魯(ろ)の昌平(山東省曲阜)に生れたが、若くして父を亡くす。大臣となるが、魯の政治改革に失敗して諸国を流浪、晩年再び魯に帰って教育、古典編纂に携わる。仁・義・礼・知・信の「五常」を説く。「春秋」「詩経」などを著す。(以下は「論語」から)

- a, ()あり、遠方より来たる、亦楽しからずや。(学而第一-01)
- b, 子曰わく、巧言令色、鮮(すく)なし()2。(陽貨第十七-17)
- c, 子貢、政を問う。子の曰わく、食を足し兵を足し、民をしてこれを信ぜしむ。子貢が曰わく、必ず已(や)むを得ずして去らば、斯の三者に於て何(いず)れをか先きにせん。
曰わく、()3を去らん。曰わく、必ず已むを得ずして去らば、斯の二者に於て何れをか先きにせん。曰わく、食を去らん。古(いにしえ)より皆な死あり、民は()4なくば立たず。(顔淵第十二-07)
- d, 哀公が有若にたずねた。
「この凶作で財源が確保できそうもないが、うまい対策はないものか」
「()5なさることです」「今でさえ足りないのに、もっと減らせというのか」「そのとおりです。人民の暮らしに余裕があること、それが財源です。人民の暮らしに余裕がないなら、あなただけ余裕があるはずはありません」(顔淵第十二-09)
- e, 季康子が政治の眼目をたずねたのに対して、孔子はこう答えた。
「政は正、正すという意味です。あなたが率先して模範を示せば、悪をはたらく者はいなくなるでしょう」→()6主義 (顔淵第十二-17)

2,孟子 BC. 372~BC. 289 中国、戦国時代の思想家・儒学者。姓は孟、名は軻(か)、魯国(山東省)の鄒(すう)の人。人間の本性は善とする性善説に基づく王道政治を説いたことで知られている。

「水は、確かに堰を切り落とす前から西に流れるか東に流れるか分けられないが、どうして上下に分けられないだろうか。人の本来の性質が()8であるのは、水が下に流れるのと同じようなものだ。人が善でないことは無く、水が下に流れないことは無い。人が不善な行為をし得るのは、人の本来の性質も、水のそれと同じく、外部の影響を受けるからである。」

3,荀子 BC.30ごろ 戦国時代 荀子はBC.310年代に趙国の荀に古い晋の名族の後裔として生まれたとされ、BC.266頃に秦に、BC.265頃に齊に遊説し、BC.255頃まで齊に滞在し、稷下の長老として名をはせた。

「人の本来の性質は()9である。それが善である者は、人為の結果、そうなったのである。人の本来の性質は、生まれながらにして利を好むものである。このままにすると、争奪

が生じて、遠慮するということがなくなる。--だから必ず正しい導き手、()10と義による感化があって、その後初めて遠慮の心が生まれ、条理に合致し世の中が治まる。」

荀子の弟子に李斯、韓非子などが出て「法家」を形成し、始皇帝により「焚書坑儒」が行なわれる。
・信 ・兵 ・礼 ・朋(とも) ・仁 ・善 ・悪 ・徳治 ・減税 ・死刑

道家

老子 中国、春秋戦国時代の思想家・道家(どうか)の祖。姓は李(り)、名は耳(じ)。儒家の「礼」の思想を人為的なものとして批判し、「自然に帰る」「無為自然」を説いた。(以下は「老子」から)

- 8章「生命が善く生きるとは例えば水の有り様に似ている。水は全ての生命あるものを育てそれは決して争う事がない。多くの人汚いと思うような場所でも水にとっては善も悪も一つだ。そういった水の有り様が道の有り様を教えてくれる。」→(「)11如水」11
- 78章「この世界に在って、()12のように柔弱なものはない。しかし柔弱でありながら、どれほど堅強な者として(同)に勝てるものはない。これほど簡単な事もあるまい。弱でありながら、まさに強に勝ち、柔でありながら、まさに剛に勝つ。」→(「)13
- 76章「生きている人の体は柔らかいが、死んだ人の体は堅い。草木を含めた全ての生命も、生きている時は柔らかく、死ぬと枯れて堅くなる。だから堅くなれば死ぬ事になり、柔らかければ生きられる。堅くなく強くあろうとする()14が勝つ事はなく、しなやかさの無い強靱な木は折れ易い。」→()13と同じ)
- 18章「大道廢(すた)れて()15有り。知慧(ちえ)出でて大偽有り。六親(りくしん)和せずして孝慈有り、国家昏乱(こんらん)して忠臣有り。」→儒家批判
- 19章「聖を絶ち智を棄つれば、民の利は百倍し、仁を絶ち義を棄つれば、民、好慈に復り、巧を絶ち利を棄つれば、()16有ること無し。」
- 20章「学問を捨ててしまえば人は思い悩む事もない。」→(「)17無憂」17
- 31章「優れた()18などというものは無くてもよいもの。道を守る者は彼らの中にはいない。ましてや兵によって君子たらんとする者など君子の器ではない。もしも勝つ事が正しい事なら殺人を楽しませるのと同じ事。互いに殺し合ってどうして世界を治められよう。」→(「)19
- 57章「人々の間に争いのための武器が増えると、国は益々乱れる事になる。--法律ばかりが多くなると、返って世の中には盗人の類が増えるもの。だから聖人は言う。私が何も事さらな事を敢えてしなければ、人々は在るがままに育ち、私が静かにしていれば、人々は自然に正しさを知り、私が無事に生きていけば、人々は自然に富み、私が無欲であれば、人々は自然と生命そのものに立ち返ると。」→(「)20自然」20